

第4学年 算数科学習指導案

日 時：令和5年10月13日（金）5時間目

場 所：4年2組教室

授業者：

1 単元名 『変わり方』 全5時間

2 単元について

教材について	児童の実態	研究内容とのかかわり
<p>3学年「□を使った式」では未知数として□を使い、立式したり□に当てはまる数を求めたりすることを学んでいる。さらに4学年「式と計算」では○、△、□を用いて計算のきまりを一般的な式で表すことを経験している。</p> <p>本単元では「伴って変わる2つの数量を見だし、その関係を表や式、グラフに整理して表すこと、表や式を用いて2つの数量の変化や対応の特徴を考察すること」について学習していく。5学年以降の関数の学習に向けて、「伴って変わる二つの数量に着目し、表に整理して表すこと」「表を縦や横に見ることで変化のきまりを見出すこと」を身に付け、規則性を適用して問題を自力解決できるよさを感じることができるようになりたい。</p> <p>本時では、前時までに学習した「順序よく調べる」「表に表す」「きまりを見つける」「きまりを式に表す」の学習の見通しをもとに、表や式を用いて問題を解くことができるようにする。表から気付いたことを交流するときには、表を横（変化）に見たものか、縦（対応）に見たものかという見方を共有し、言葉と表、表と式を繋げて考えられるようにしていきたい。また、式はこれらの特徴を簡潔に表すことができるというよさに気付かせたい。</p>		<p>導入場面において、10段のときのぼうの数という大きい数を求めるには、表に整理し、関係を捉えて立式して求めればよいという、前時までの学習を生かした問題解決の見通しがもてるようにする。</p> <p>また、終末で、一人一人が問題に取り組む前に、全体にGIFUウェブラーニングの「今日の問題」を提示することで、数値が変わっても本時の学習を生かして問題を解く見通しをもたせ、主体的に解決しようとする態度を養う。指導過程では表を縦、横どのように見て立式したのか、○、△の式と言葉の意味を繋げて考えられるようにする。</p> <p>理解を深めるための練習問題では、GIFUウェブラーニングを用いて、児童が本時までに身に付けた問題解決の過程を生かして学習に取り組む姿を目指す。</p>

・本単元の目標

ともなって変わる2つの数量の関係の調べ方を理解し、数量の関係を表や式、グラフに表したり、それらを用いて関係を考察したりすることができる。

・本単元で用いる主な見方・考え方

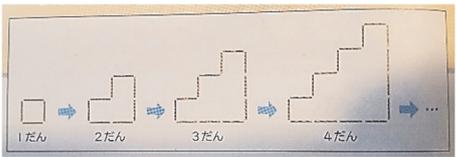
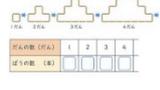
- ・数量を○、△などを用いて表し、その関係を式に表したり○、△などに数を当てはめて調べたりすること。
- ・ともなって変わる2つの数量を見だして、それらの関係に注目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。

3 単元指導計画（下線部が明確にした「主体的に思考・判断・表現する姿」）

時	学習活動（ねらい）	評価規準 ○記録に残す評価 ・指導に生かす評価
1	<p>対応して変化する2つの数量の関係を表に表したり、その関係を$\bigcirc + \Delta = a$の型の式に表したりして考察することができる。</p> <p>課：変わり方を調べる方法を考えよう。 ま：<u>変わり方を調べるときは、表をつくり、たての方向や横の方向に見ると、きまりを見つけやすくなる。</u></p>	<p>・ともなって変わる2つの数量の関係を調べるときは、表や式を用いるとよいことを理解している。（知・技） ○場面からともなって変わる量を見出している。また、数量の関係を調べるには順序良く並べればよいことに気づき、表を縦や横に見てきまりを見出している。（思・判・表）【sky menu】</p>
2	<p>2つの数量の関係を表に表したり、$\bigcirc + a = \Delta$の型の式に表したりして考察することができる。</p> <p>課：きまりを式に表して、まわりの長さを求めよう。 ま：<u>表から見つけたきまりを式に表すと、正三角形の数が増えても、周りの長さを求めることができる。</u></p>	<p>○2つの数量の関係を$\bigcirc + a = \Delta$の型の式に表して、一方の量からもう一方の量を求めることができる。（知・技）【sky menu】</p>
3 本時	<p>2つの数量の関係を表に表したり、式に表したりして、規則性について考察することができる。</p> <p>課：わけをはっきりさせて、数が大きくなったときのぼうの数を求めよう。 ま：<u>表をたてや横に見て、きまりを見つければ、数が大きくなっても求められる。</u></p>	<p>○2つの数量の関係を表や式などを用いて考察し、それを問題解決に生かしている。（思・判・表）【sky menu】 ・表や式を用いた既習の調べ方を振り返り、それらを用いて問題を解決しようとしている。（主）</p>
4	<p>徐々に水が減っていく場面で、水の量の変わり方を折れ線グラフに表し、2つの数量の関係を考察することができる。</p> <p>課：変わり方をグラフに表して調べよう。 ま：<u>表の数をグラフに表すと、変わり方が見やすくなる。</u> 1ずつ増えると10ずつへる問題を、折れ線グラフに表したら直線になった。</p>	<p>○2つの数量の関係をグラフに表すことができる。（知・技）【sky menu】 ・2つの数量の関係を、グラフを用いて調べる良さに気づいている。（主）</p>
5	<p>基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟することができる。</p> <p>課：これまでの学習を生かして、たしかめ問題に取り組もう。</p>	<p>・比較量を求めるときは乗法、割合や基準量を求めるときは除法が用いられることを理解している。また、整数倍（割合）を用いて、数量の関係を比べることができる。（知・技）</p>

4 本時のねらい

「順序よく調べる」「表に表す」「きまりを見つける」「きまりを式に表す」の学習の見通しをもとに、表や式を用いて問題を解くことを通して、言葉と表、表と式を繋げて考え、変わり方の特徴を簡潔に表すことのよさに気づき、問題解決に生かすことができる。

		学習活動	指導・援助										
つかむ	考える	<p>1. 問題を捉える</p> <p>ぼうをならべて、階段のような形をつくれます。10だんのとき、ぼうの数は何本ですか。</p>  <ul style="list-style-type: none"> だんの数が増えると、ぼうの数も増えている。変わり方にきまりがありそうだ。 10だん分の図をかいて数えるのは大変だから、式で計算したい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> わけをはっきりさせて、数が大きくなったときのぼうの数を求めよう。 </div>	<p>・前時の問題の図、表をテレビに映し、これまで学習した表の見方(横は変化,縦は対応)を復習する。</p> <p>・本時の問題の図をテレビに映し、だんが増えるとぼうの数も増えることを視覚的に捉えさせる。 視覚化</p> <p>・本時の問題から、伴って変わる数量(だんの数,ぼうの数)に注目させ、○=だんの数,△=ぼうの数であることを確認する。</p> <p>・表から変わり方のきまりを見つけるときのポイントを確認し、立式する方法が定着するようにしていく。</p>										
		<p>2. 問題解決の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①表をつくる ②表を縦,横の方向に見てきまりを見つける ③○と△の式の順番で問題が解けそうだ。 だんの数を○,ぼうの数を△として調べれば,きまりを見付けられそうだ。 <p>3. 自分の考えをもつ</p> <p>①表にまとめる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 5px;">だんの数(だん) ○</td> <td style="padding: 5px;">1</td> <td style="padding: 5px;">2</td> <td style="padding: 5px;">3</td> <td style="padding: 5px;">4</td> <td style="padding: 5px;">5</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">ぼうの数(本) △</td> <td style="padding: 5px;">4</td> <td style="padding: 5px;">8</td> <td style="padding: 5px;">12</td> <td style="padding: 5px;">16</td> <td style="padding: 5px;">20</td> </tr> </table> <p>②きまりを見付ける。 →○を4倍すると,△になる。 →○が1増えると,△は4ずつ増えている。</p> <p>③○と△の式をつくる。 →$\text{○} \times 4 = \Delta$ $10 \times 4 = 40$ →$4 + 4 \times (\text{○} - 1) = \Delta$ $4 + 4 \times 9 = 40$ 答え40本</p> <p>4. 全体交流をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 表から考えてきまりを見付けられれば,だんの数が大きくなってもぼうの数を求められる。 前時まではきまりの式はたし算だったが,かけ算をつかって求めることもできる。 表を縦で見たときの4は$\text{○} \times 4 = \Delta$の4と同じだ。 <p>5. まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 表をたてや横に見て,きまりを見付けられれば,数が大きくなっても求められる。 </div> <p>6. New!GIFU ウェブラーニングのきょうの問題に取り組む</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> <div style="width: 45%;"> <p>過去5問</p> <p>ご石を下のように正三角形の形にならせます。8番めの正三角形を作るには,ご石を何こ使うでしょう。</p>  <p>答え <input type="text"/> こ</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>過去3問</p> <p>ぼうをならべて,山のような形をつくれます。10だんのとき,ぼうの数は何本ですか。</p>  <p>だんの数が1だん,2だん,3だん,4だんのときのぼうの数を答えましょう。</p> <p>答え</p> <p>1だん... <input type="text"/> 本</p> <p>2だん... <input type="text"/> 本</p> <p>3だん... <input type="text"/> 本</p> <p>4だん... <input type="text"/> 本</p> </div> </div> <p>・だんの形がちがうと,ぼうの数を求める式も変わりそうだ。</p> <p>・表をつくれれば問題が変わっても式が作れそうだ。</p>	だんの数(だん) ○	1	2	3	4	5	ぼうの数(本) △	4	8	12	16
だんの数(だん) ○	1	2	3	4	5								
ぼうの数(本) △	4	8	12	16	20								
まとめる	深める												

第5学年 算数科学習指導案

日時：令和5年6月22日（木）2時間目

場所：5年1組教室

授業者：

1 単元名 『小数でわる計算を考えよう』 全17時間

2 単元について

教材について	児童の実態	研究内容とのかかわり
<p>「小数のかけ算」において、「乗数が小数であっても、整数に直すことができれば計算することができる」ことを学習している。これは、「初めて考える計算でも、既習の計算を用いることができるようにすれば、答えを導き出すことができる」ということである。この考えは、算数において、見通しをもって課題解決をしていく際に非常に大切になってくる。本単元も同様に「わる数が小数になっても、かけ算の時と同じように、整数にすれば計算できるようになる」という考え方を見つけ出させ、新しい問題を自力解決できる楽しさを感じることができるようにしたい。</p> <p>本時では、純小数でわると商は被除数よりも大きくなることを理解させる。多くの子どもたちは、「かければ答えが大きくなり、われば小さくなる」という思い込みをしている。それは、日常生活の中で行うかけ算やわり算の多くがこの場合に当てはまっているからであり、わり算は「わける」イメージが強いからである。そのため、その思い込みには固執性があり、なかなか解消されない。そこで、捉え直した小数でわるわり算の意味を明確にして説明させ、わり算の意味である「1あたりの数」をもとめていくということを理解させていきたい。</p>		<p>導入場面において、既習学習とのズレや児童がもつ感覚とのズレを生み出し、本時の課題を設定することで、児童が問題解決に必要感を感じられるようにする。また、授業の終盤で、理解を深めるため活用問題を提示することで、児童に新たな問題意識を生み出し、主体的に解決しようとする態度を養う。活用問題を解くためには、まとめたことを活用すればよいのではないかと類推させ、問題解決させていく。指導過程では数値を変化させて考えても、同じようなきまりが成り立つことを確認できるようにする。理解を深めるための練習問題では、GIFU ウェブラーニングを用いて、児童が本時の本質的な学習内容に着目して考え、問題解決することを目指す。</p>

・本単元の目標

除法の意味を拡張し、除数が小数の場合でも除法が用いられることを理解し、小数の除法の計算のしかたを考えたり、筆算で計算したりすることができる。

・本単元で用いる主な見方・考え方

- ・除法の意味について、整数の場合から類推的に考えたり、図を用いて捉えたりすること。
- ・計算の仕方について、既習の計算に帰着させて考えたり、筆算の仕方について統合的・発展的に考えたりすること。

3 単元指導計画（下線部が明確にした「主体的に思考・判断・表現する姿」）

時	学習活動（ねらい）	評価規準 ○記録に残す評価 ・指導に生かす評価
1	<p>除数が帯小数の場合でも除法の式に表すことができることを、除数が整数の場合から類推したり、数直線図を用いたりして理解することができる。</p> <p>課：96 ÷ 2.4で表してよい理由を説明しよう</p> <p>ま：わる数が小数で表されていても、<u>整数の時と同じようにわり算で計算することができる</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・除法の意味を拡張して捉え、帯小数でわることの意味や除数が帯小数のときの立式を理解している。（知・技） ・帯小数でわることの意味を数直線図などを用いて考え、説明することができる。（思・判・表）
2 ・ 3	<p>整数×帯小数の計算の仕方を、既習の計算に帰着させて考えることができる。</p> <p>課：整数÷小数の計算はどのように計算するとよいだろうか</p> <p>ま：整数÷小数の計算は、<u>かけ算の時と同じでわる数を整数に直して考えると計算することができる</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整数÷帯小数の計算の仕方を理解している。（知・技） ・小数の仕組みに着目し、除数が帯小数の計算の仕方を、既習の計算に帰着させて考え、説明することができる。（思・判・表）
4	<p>除数が純小数の場合でも、除法の式に表すことができることを、数直線図などを用いて理解し、その計算の仕方を考えることができる。</p> <p>課：48 ÷ 0.6で表してよい理由を説明しよう</p> <p>ま：わる数が1より小さい小数で表されていても、<u>1mあたりをもとめるためにはわり算で計算することができる</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整数÷純小数の意味や計算の仕方を理解し、立式して計算することができる。（知・技） ○整数÷帯小数の意味を説明した方法を振り返り、整数÷純小数でもそれを生かそうとしている。（思・判・表）【skymenu】
5	<p>計算原理に基づいて、整数÷小数を筆算で計算することができる。</p> <p>課：整数÷小数の筆算はどのように計算するとよいのだろうか</p> <p>ま：整数÷小数の筆算は<u>整数÷整数になるように小数点を移動させて考えると計算することができる。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整数÷小数の筆算の仕方を理解し、計算できる。（知・理） ・整数÷小数の学習をもとに、小数÷小数がどうなるかと、発展的に新しい問題を見出している。（思・判・表）
6	<p>小数÷小数の式表示と計算原理、方法を理解し、立式したり筆算で計算したりすることができる。</p> <p>課：小数÷小数の計算はどのように計算するとよいだろうか</p> <p>ま：小数÷小数の計算は、<u>わる数を整数に直せばこれまでと同じように計算することができる</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数÷小数の意味や計算の仕方、筆算の仕方を理解し、計算できる。（知・技） ○数直線図や既習の整数の除法などをもとに、小数÷小数の立式をし、計算の仕方を考え、説明することができる。（思・判・表）【skymenu】
7	<p>小数（1/100の位）÷小数（1/10の位）の筆算の仕方をまとめることができる。</p> <p>課：4.32 ÷ 1.8はどのように計算するとよいだろうか</p> <p>ま：小数÷小数の計算は、<u>わる数のみを整数に直して計算するともとめることができる</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数（1/100の位）÷小数（1/10の位）の計算について除数のみを、整数に直せばよいことを理解し筆算で計算できる。（知・技）
8	<p>小数÷小数の筆算の仕方をまとめることができる。</p> <p>課：1/1000の位の小数の計算のやり方を考えよう</p> <p>ま：これまでのやり方を用いて<u>小数点を移動させれば、小数第何位でも同様のやり方で筆算することができる</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数の除法の一般化した筆算の仕方を理解し、計算できる。（知・技）
9	<p>基本的な学習内容に習熟し、それを活用することができる。（練習）</p> <p>課：これまでの学習を生かして練習に取り組もう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数の除法の計算の仕方を理解し、計算できる。また、それを用いて問題を解決することができる。（知・技）
10 (本時)	<p>小数でわる除法で、除数の大きさから、商と被除数との大小関係を判断することができる。</p> <p>課：わり算の商がわる数より大きくなる時はどんな時だろうか</p> <p>ま：わる数が1より小さい数の時、商はわる数より大きくなる<u>数直線を用いて考えたり、簡単な数字を入れて考えたりするとわかりやすい</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・除数の大きさから、商と被除数の大小関係が判断できることを理解している。（知・技） ○数直線図上の除数の大きさに着目し、商と被除数の大小関係を見出している。（思・判・表）【skymenu】

1 1	<p>小数でわる除法で、わりきれぬまでわり進む筆算の仕方を理解することができる。</p> <p>課：わり進みの小数の計算はどのように進めていくとよいだろうか ま：<u>これまでと同じように筆算し、小数点をつければ計算できる</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数でわる除法で、わりきれぬまでわり進む場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。(知・技)
1 2	<p>小数でわる除法で、あまりの意味と大きさを理解し、商とあまりを求めることができる。</p> <p>課：小数のわり算のあまりの大きさについて考えよう ま：小数のわり算のあまりの小数点は、わられる数のもとの小数点にそろえたうっ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数でわる除法では、あまりの小数点は、被除数のもとの小数点にそろえてうっことを理解している。(知・技) ・あまりの大きさを除数とあまりの大小関係などに着目して考えている。(思・判・表)
1 3	<p>小数でわる除法で、商を四捨五入して、1/10の位までの概数で求めることができる。</p> <p>課：商がわりきれぬとき、答えはどのように表すとよいのだろうか ま：商がわりきれぬときは、<u>前習ったように四捨五入して表すとよい</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数でわる除法で、商を概数で表すことができる。(知・技)
1 4	<p>小数の除法において、求答事項に応じて演算決定することで、除法の理解を深めることができる。</p> <p>課：文章を読んでどのように立式するとよいだろうか ま：<u>数直線図や簡単な数の場合で考えると、わり算の式がわかりやすくなる</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ○数直線図などを用いて、求答事項に応じて式を考え、説明している。(思・判・表)
1 5	<p>比較量を求めるときには小数の乗法、割合を求めるときには小数の除法が適用されることを理解することができる。</p> <p>課：何倍かの大きさを求める計算のやり方を考えよう ま：<u>もとにする量が小数で表されていても、何倍になっているかをもとめるにはわり算を用いればよい</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・比較量を求めるときには、小数の乗法が適用され、割合を求めるときには、小数の除法が適用されることを理解している。(知・技) ・比較量を求めるときには、小数の乗法が適用されることや、割合を求めるときには、小数の除法が適用されることを数直線図などをもとに見出している。(思・判・表)
1 6	<p>割合が小数の時、基準量を求めるのに、小数の除法が適用されることを理解することができる。</p> <p>課：もとにする量を求める計算を考えよう ま：何倍を表す数が小数で表されていても、<u>もとにする量を求めるには、わり算を用いればよい</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基準量を求めるときに、小数の除法が適用されることを理解している。(知・技) ・基準量を求めるときに、小数の除法が適用されることを数直線図などをもとに見出している。(思・判・表)
1 7	<p>基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</p> <p>課：これまでの学習を生かしてたしかめ問題に取り組もう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小数でわる除法の計算の仕方を理解し、筆算で計算できる。(知・技) ・小数でわる除法の計算の仕方を除法のきまりを使って説明している。(思・判・表)

4 本時のねらい

除数が1より大きい小さいかによって、商が被除数より大きい小さいかを数直線上での位置の関係をもとに考えることを通して、小数でわる除法の商についての大小関係を判断することができる。

5 本時の展開 (10/17)

	学習活動	指導・援助
つかむ	<p>1. わり算の商の大きさについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでのわり算はわられる数より商が小さくなるが多かった。やっぱりわり算をすると商は小さくなると思う。 小数のかけ算も1より小さい数をかけたら積が小さくなったから、わり算でも商が大きくなることもあるかもしれない。 以前$48 \div 0.6 = 80$だったからいつも小さくなる訳ではない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>わり算の商がわられる数より大きくなる時は どんな時だろうか</p> </div> <p>2. デジタル教科書で問題をとらえる</p> <p>36gのはり金④, ⑤があります。④の長さは1.2mで、⑤の長さは0.8mです。 それぞれの1mの重さを求めて、36gと比べましょう。</p>	<p>・簡単なわり算をテレビに映し、これまで学習したわり算を数問解かせ、商がいつもわられる数より小さくなっていることを帰納的に捉えさせる。また、数値に色を付け、本時に注目することは被除数と商の大小関係であることを視覚的にわかるようにする。 視覚化</p> <p>・デジタル教科書で数直線図を自分で作り、計算式を考える足場とさせる。その際「1mの長さ」がもともになるのでそちらを下に書けばよいことを確認する。また、「数直線図を見て、□と36はどちらが大きいと言えるか」「それはなぜか」を問うことで根拠を明確にして説明ができるようにする。 焦点化</p>
	<p>・1mあたりの重さ(=商)と36(=わられる数)の大きさを比べるという事だな。式は$36 \div 1.2$, $36 \div 0.8$でよさそうだ。</p> <p>・小数のかけ算のときも、大小関係を調べた。同じように考えればできそうだ。</p>	<p>・数直線図から式を作る際のポイントを確認し、立式する方法が定着するようにしていく。 →「小数のわり算は1に当たる大きさを求める計算」だということをこれまでの学習から想起させる。つまり、今回も1mあたりの重さをもとめることが答えにつながることを理解させる。</p>
考える	<p>3. 自分の考えをもつ</p> <p>①数直線図を使って説明を考える。 →長さ(わる数)が1より大きいと、重さの36が□より右側にくるから□は36より小さい。長さが1より小さいと、重さの36が□より左側にくるから□は36より大きい。</p> <p>②他の数(わる数を変える)で実際に計算して説明を考える。 →いくつか計算をしてみても、わる数が1より小さいと商は36より大きくなる。逆にわる数が1より大きいと商は36より小さくなる。</p>	<p>・「小数のかけ算」の学習の内容を想起させ、積の大小についてどのように考えたかを確認する。かけ算の際もかけたら小さくなった場合があったことを思い出させる。</p> <p>・数直線や小数で考えるのが難しい児童には簡単な数を入れて考えてみるようにアドバイスすることで、商が大きくなる場合を理解させる。</p>
	<p>4. 全体交流をする</p> <p>・数直線や簡単な数で考えても、わる数が1より大きい時と小さい時で商の大きさが変化する。</p>	<p>・わる数に0.8より小さい数を入れて考えてみた時に、わる数が小さくなるほど、わられる数が商から離れていき商(1あたりの数)が大きくなることに気付かせ、大小関係のきまりにつなげていく。 共有化</p>
まとめる	<p>5. えんぴつ問題(デジタル教科書)を行う</p> <p>6. まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>商とわられる数の大小関係は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わる数>1のときは、商$<$わられる数 ・わる数$=1$のときは、商$=$わられる数 ・わる数<1のときは、商$>$わられる数 となる。 </div>	<p>評価規準</p> <p>・数直線図上の除数の大きさに着目し、商と被除数の大小関係を見出している。(思・判・表)</p>
	<p>7. New! GIFU ウェブラーニングのきょうの問題に取り組む</p> <p>8. 活用問題に取り組む</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>0~9の数字カードが一枚ずつあります。そのカードを□.□\div□.□に当てはめます。一番大きい商にするにはどうすればよいでしょうか。ただし、数字カードは1度だけ使えることとします。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を生かして、わる数を1より小さい数にすればよい。 ・今日の問題では、わる数が小さくなる程、答えが大きくなっている。だから、わる数は、0.1にするとはよいのではないか。 ・わられる数は1番大きい数にする必要がある。だから、9.8だ。 	<p>・skymenuで今日の自分のノートを提出させ、これまでの既習を活かして考えていくことができたかを評価する。</p> <p>・これまでのデータから、支援が必要なさそうな児童は自分で進めさせ、支援が必要な児童を中心に巡視して指導する。</p> <p>・できた児童には「私の学習状況」から復習に取り組ませる。</p>
深める		